

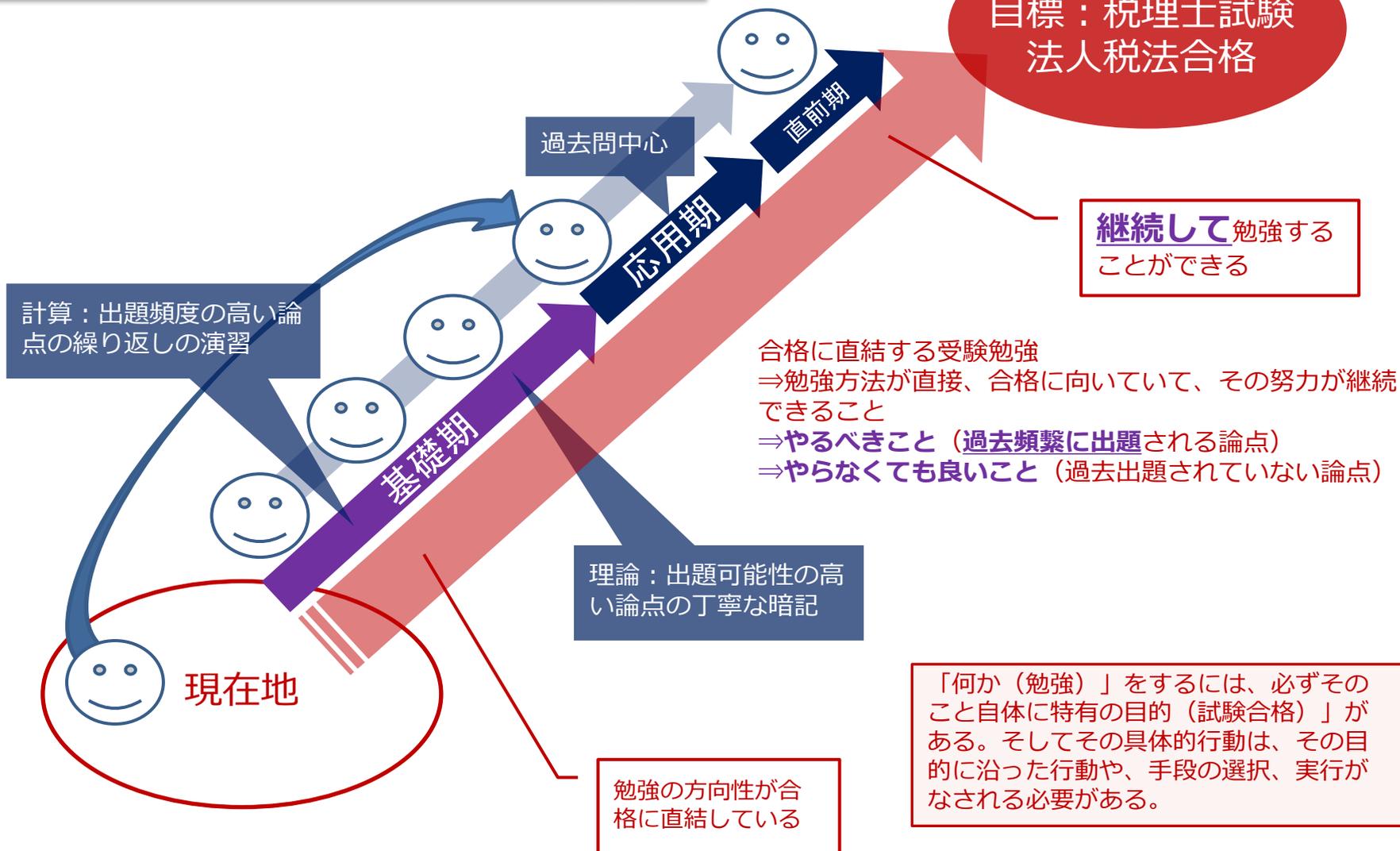
法人税法 基礎期 第2回

(前編、後編)

資格★合格クリアール

精神論は大事です！「絶対に合格する！」と「合格すればいいな」は天地ほどの違いがあります。

目標：税理士試験
法人税法合格



継続して勉強することができる

合格に直結する受験勉強
⇒勉強方法が直接、合格に向いていて、その努力が継続できること
⇒やるべきこと (過去頻繁に出題される論点)
⇒やらなくても良いこと (過去出題されていない論点)

理論：出題可能性の高い論点の丁寧な暗記

計算：出題頻度の高い論点の繰り返しの演習

勉強の方向性が合格に直結している

「何か(勉強)」をするには、必ずそのこと自体に特有の目的(試験合格)がある。そしてその具体的行動は、その目的に沿った行動や、手段の選択、実行がなされる必要がある。

症状：

応用答練以降、答練では**理論は白紙**が多く、**計算問題も**どのように解いていいかわからない。

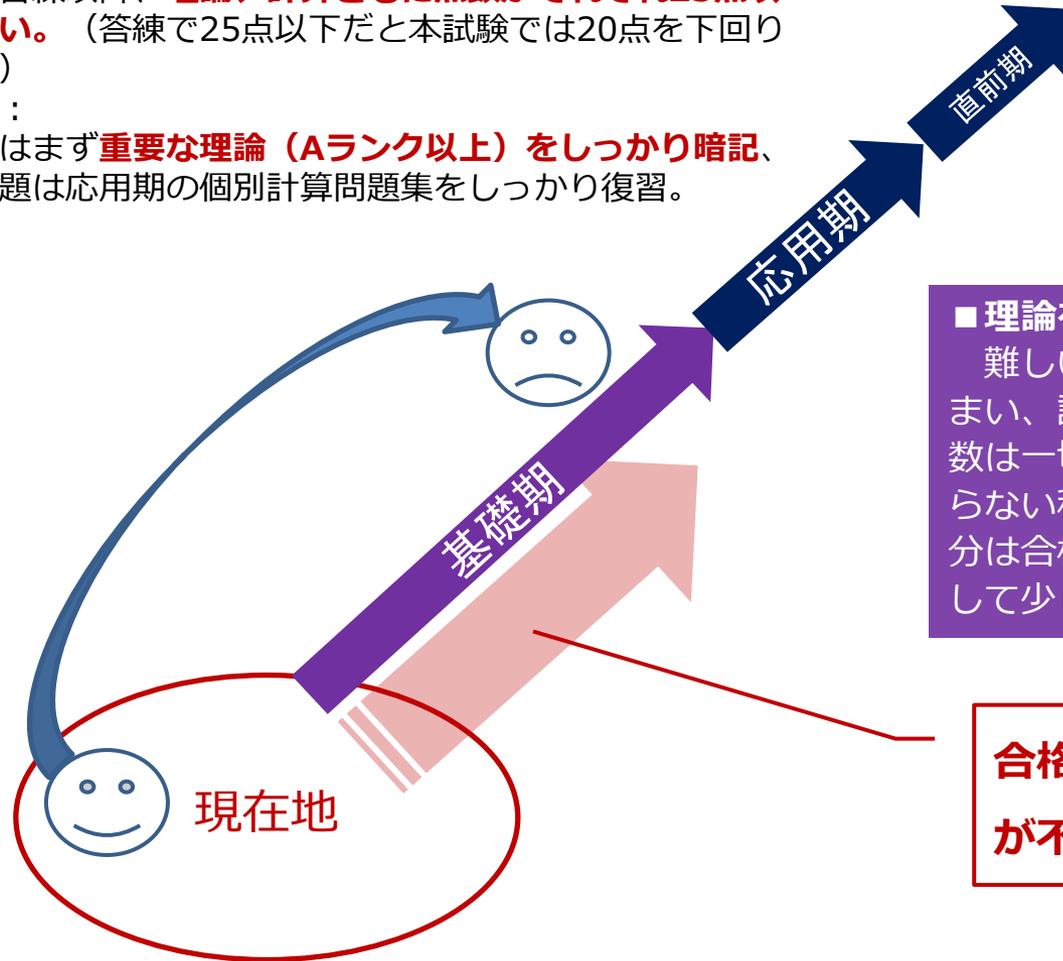
症状の発見方法：

応用答練以降、**理論、計算ともに点数がそれぞれ25点以下が多い**。(答練で25点以下だと本試験では20点を下回ります。)

対処法：

理論はまず**重要な理論 (Aランク以上)**をしっかりと暗記、計算問題は応用期の個別計算問題集をしっかりと復習。

目標：税理士試験
法人税法合格



■ 理論を白紙で提出してしまう受講生に向けて
難しい論点だからといって、簡単に諦めてしまい、該当箇所を白紙で提出してしまうと、点数は一切つかないでしょう。それゆえ、“嘘にならない程度に”何らかの記述をすることで、「自分は合格したい！」という情熱を出題者側に対して少しでもアピールをする姿勢が大切です。

合格に必要な勉強時間が不足している。

症状：

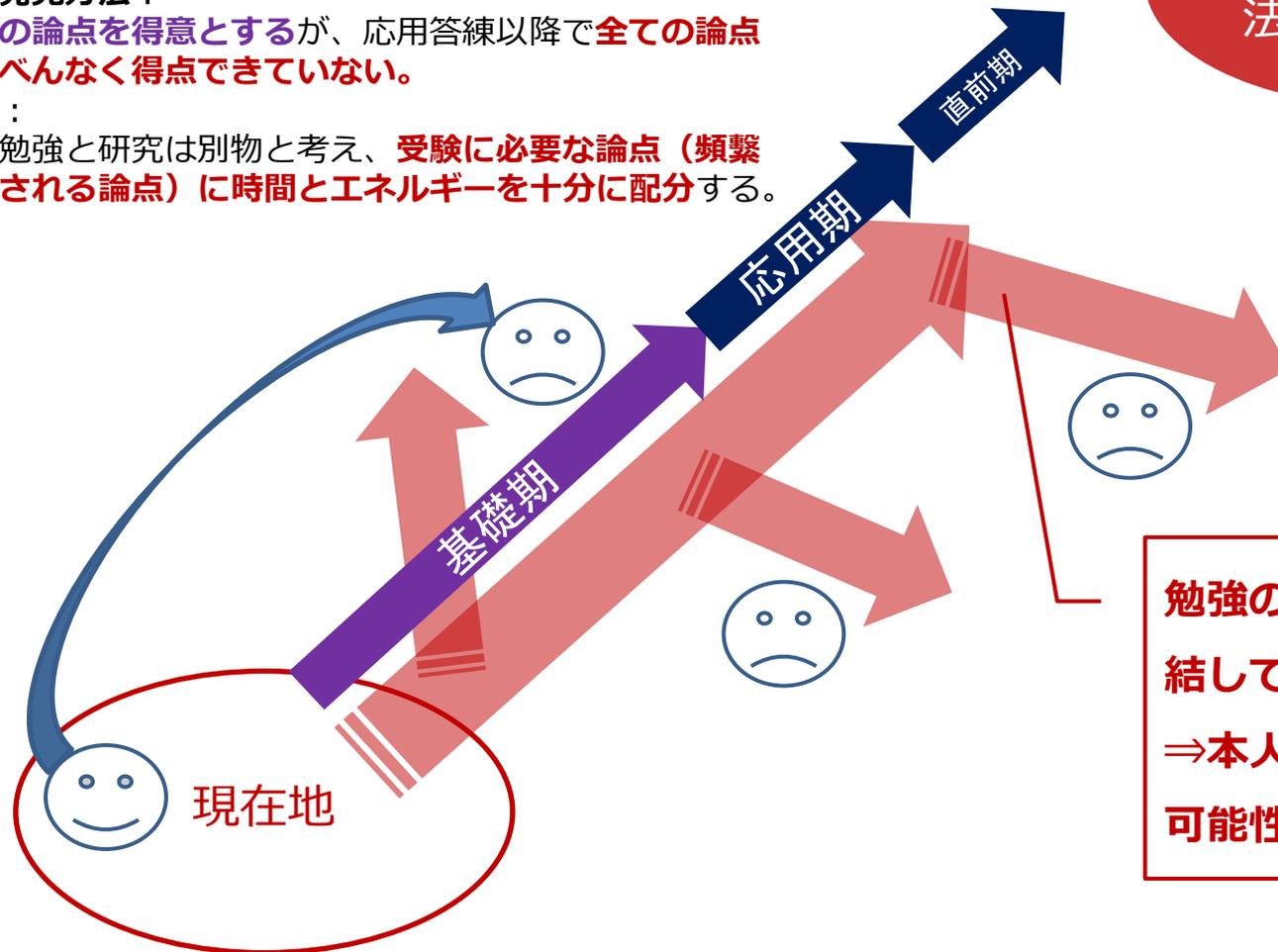
受験勉強とは関係のない論点に拘りが強く、相当細かい論点について質問をする。受験勉強はあくまでも受験勉強。研究者になることが目的ではありません。

症状の発見方法：

特定の論点を得意とするが、応用答練以降で全ての論点をまんべんなく得点できていない。

対処法：

受験勉強と研究は別物と考え、受験に必要な論点（頻繁に出題される論点）に時間とエネルギーを十分に配分する。



目標：税理士試験
法人税法合格

勉強の方向性が合格に直結していない。
⇒本人は気づいていない可能性が高い

1 「何としても合格するのだ！」という気合と執念が大前提

- 勉強時間は「ある」ものでなく、「作り出す」もの
- 時間があっても勉強時間として活用しなければ意味がない。

2 講義の活用の仕方

- 予習は不要、**復習を中心に**
- 答練は必ず受ける
 - ・ 学習が遅れがちになると、覚えることを優先するために答練をパスしたくなる心境になるが、これは脱落の典型的パターン
 - ・ 答練は、現時点の実力を試すためだけでなく**以下の効用**がある。
 - ・ 法人税法（税法科目）の学習に慣れるまでは **答練の出題範囲を中心に学習**
 - ・ 答練を解くことで、自分の**苦手分野、不得意分野を把握し、復習に役立てる**。
 - ・ **本番に沿った試験形式（特に時間配分）に慣れる**。
 - ・ 失点の発生パターンを早めに把握する。
 - 答練等で早めに失点することで、本番では同じ失敗をしないようにする。
 - そのためには、必ず同じ問題で解きなおしを行う。

苦手分野、不得意分野はテキストや個別計算問題集等を使って早めに克服。

3 合格のための自宅勉強法

スピードを養いかつケアレスミスを防止するためには、基本問題の反復練習が不可欠

(1) 計算問題対策

- 個別計算問題は最低3回（できれば5回）できるまで、かつ、正解数が不正解数を上回るまで何度も解きなす。
 - ・合格する人は個別計算問題重視の学習（∵法人税の総合計算問題は個別問題の集合体→多くの個別演習問題を解き慣れることで少しでも穴をなくすと同時に、各論点の体系的学習を図る。） 例：令和5年度本試験計算問題では5月末決算の問題が出題

【例】

- ・演習した結果、正答できたら○、計算間違い等ケアレスミスでの不正解は△、理解できていない（考え違いを含む）ための不正解は×印をつける。
- ・○が最低3個つくまで反復練習する。
- ・反復練習の過程で正解と不正解が交互に出る場合は、たとえば3回正解できても不正解数を上回るまでやる。
× ○ △ ○ △ △ △ ○
→ ○は3つだが、×と△の方が多いのであと2回は○がつくまで練習する必要あり

(2) 理論問題対策

- 理論を覚えるのは苦痛であるが、前向きに考えれば苦痛が半減する。
・計算ミスが存在しない理論は、**覚えてしまえば安定的な得点源となりうる。**
- 理論は**書いて覚えるよりも、呪文のように唱えて覚える** (私流)
- **内容の理解**にも努める (⇒直近の本試験ではここが特に重要！！)
 - ・内容が理解することで覚えやすくなる。

★私流の理論の暗記方法★

理論を主語、要件、結論などの各パーツごとに分解し、その要素ごとに覚える。

(例)

その事業年度の益金の額に算入すべき金額は、**<主語>**
別段の定めがあるものを除き、**<=原則として ⇒ 例外規定 (別段の定め) あり>**
下記に掲げるもので **<原則についての例示>**
資本等取引以外の取引に係る収益の額とする。 **<結論>**

(1) 資産の販売

：

- ◆法律の文章は必ず一定の法則性がある。税法も同様である。
理論の内容をパーツごとに分解し、その分解したパーツを覚える。
パーツの並び方や構成の仕方などの法則性を考えながら覚えてみる。
(⇒この作業が後々に効いてくる。)

4 その他

- 仕事や学校の関係等で学習が遅れた場合は、とにかく早めに遅れを取り戻す。
 - ・ 少しの遅れならば、取り戻すのはさほど困難ではないが、遅れが大きくなると挽回も難しく、ひいては学習意欲そのものが減退するおそれがある。

それでは、これから来年7月までと一緒にがんばりましょう！！

＜参考＞
人は何かを伝えたいとき、「しかし、」より後の文章にそれが力強く現れます。

－税理士試験にはドラマがある－

「医学部に進学し、あるいは司法試験を受験する。そこにはドラマはない。親が医者だったから医学部に進学し、成績が優秀だったので法学部を目指し、司法試験を受験したのだろう。しかし、税理士試験は違う。多くの人達は、税理士試験に敗者復活戦として挑戦し、そこで勝ち残ってきた人達だ。（太字下線は担当講師）」（注1）

－サラリーマンの世界－

「私が若かった頃、サラリーマンも一つの職業だった。私のように自由業を選ぶか、会社に勤めるか、公務員になるか。それは単なる職業選択の問題だった。しかし、私自身が、定年退職年齢を超えた現在、それは人生の選択だったのだと思う。（太字下線は担当講師）」（注2）

（注1）税理士・公認会計士・弁護士 関根稔著『続々 税理士のための百箇条 -実務と判断の指針-』財経詳報社・142-143頁。

（注2）関根前掲（注1）・46-47頁。